

Society 5.0時代の学校が目指すべき姿

横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一

A photograph of Chiyoda Ward Tominaka Junior High School. The school building is a multi-story structure with a mix of brick and light-colored panels. A large, mature tree stands to the left of the entrance. In the background, a tall, modern glass skyscraper is visible. The school's name is written in large white Japanese characters across the center of the image.

千代田区立麹町中学校





【麴町中学校で話題になった主な取組み】

- 定期考査・宿題の廃止
単元テスト・再テスト制
- 固定担任制の廃止
全員担任制（チーム教育）
- 服装・頭髪指導の廃止
生徒・保護者の経営参画
- AI(人工知能)による数学指導
個別最適化・アクティブラーニング

1 現場から見る学校教育の課題

§ 1 当事者意識の欠如

§ 2 手段の目的化

2 解決策（実践と提案）

§ 3 最上位目標の合意と当事者意識

§ 4 産学融合

現場から見る学校教育の課題

若者の「国や社会に対する意識」

Section 1

当事者意識の欠如

	自分を大人だと思う	自分は責任がある 社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を 変えられると思う	自分の国に解決したい 社会議題がある	社会議題について、 家族や友人など周りの人と 積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.1%	59.8%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

若者の「国や社会に対する意識」

	自分を大人だと思う	自分は責任がある 社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を 変えられると思う	自分の国に解決したい 社会議題がある	社会議題について、 家族や友人など周りの人と 積極的に議論している
日本	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

人は与えられることに慣れていく

(サービス産業化した教育)

A photograph showing a person from the side, lying face down on a light-colored wooden table. Their head is buried in their hands, and their arms are crossed over their head. The person is wearing a light-colored, long-sleeved shirt. The background is a textured, light-colored wall. The lighting is soft and warm, coming from the upper right, creating a somber and contemplative mood.

自律・主体性を失った子どもたち

自己肯定感が低い子どもたち

目的 自律した生徒を
育成する

生きる力

Section 2

手段の目的化

手段 基礎学力を
身につけさせる

徳育

豊かな人間性

知 育

確かな学力

体育

体力・健康

目的 自律した生徒を
育成する

生きる力



手段 基礎学力を
身につけさせる

徳育

豊かな人間性

知 育

確かな学力

体育

体力・健康

目的 自律した生徒を育
成する



目的 基礎学力を
身につけさせる



手段 つまづいたところを
繰り返させる



勉強時間を増やすことが目的に

ほとんどの生徒は「×」を飛ばして提出

1 ○
2 ○
3 ○
4 ○
5 ○
6 ○
7 ○
8 ○
9 ○
10 ○

11 ○
12 ○
13 ○
14 ○
15 ○
16 ○
17 ○

20 ○

宿題は自律を失わせる象徴的なもの

ほとんどの生徒は「×」を飛ばして提出

- 1 ○
- 2 ○
- 3 ○
- 4 ○
- 5 ○
- 6 ○
- 7 ○
- 8 ○
- 9 ○
- 10 ○

- 11 ○
- 12 ○
- 13 ○
- 14 ○
- 15 ○
- 16 ○
- 17 ○
-
- 20 ○

指示されたタスクをこなすだけの子ども



日本の労働生産性が低いのも当然？



これまでの学校は

〈これまでは**教師**の立場から見てきた〉

1. 何を教えて（カリキュラム）

2. どう教えるか（教え方）

学力の低下、教育の機会均等の格差を恐れ、
結果として
子どもたちの自律性・主体性の格差を生んでいる

そして、非効率である
生徒を 教員を 学校を疲弊させている

タイムマネジメントの視点からも
時代の変化についていけない

すでに
既存の学びのシステムは限界にきている



今後の学校のあるべき姿は

〈学習者主体で〉

1. 何を学んで（カリキュラム）
2. どう学ぶか（学び方）

〈学習者主体で〉

1. 何を学んで（カリキュラム）
ICTテクノロジー
2. どう学ぶか（学び方）



Qubenaによる数学授業

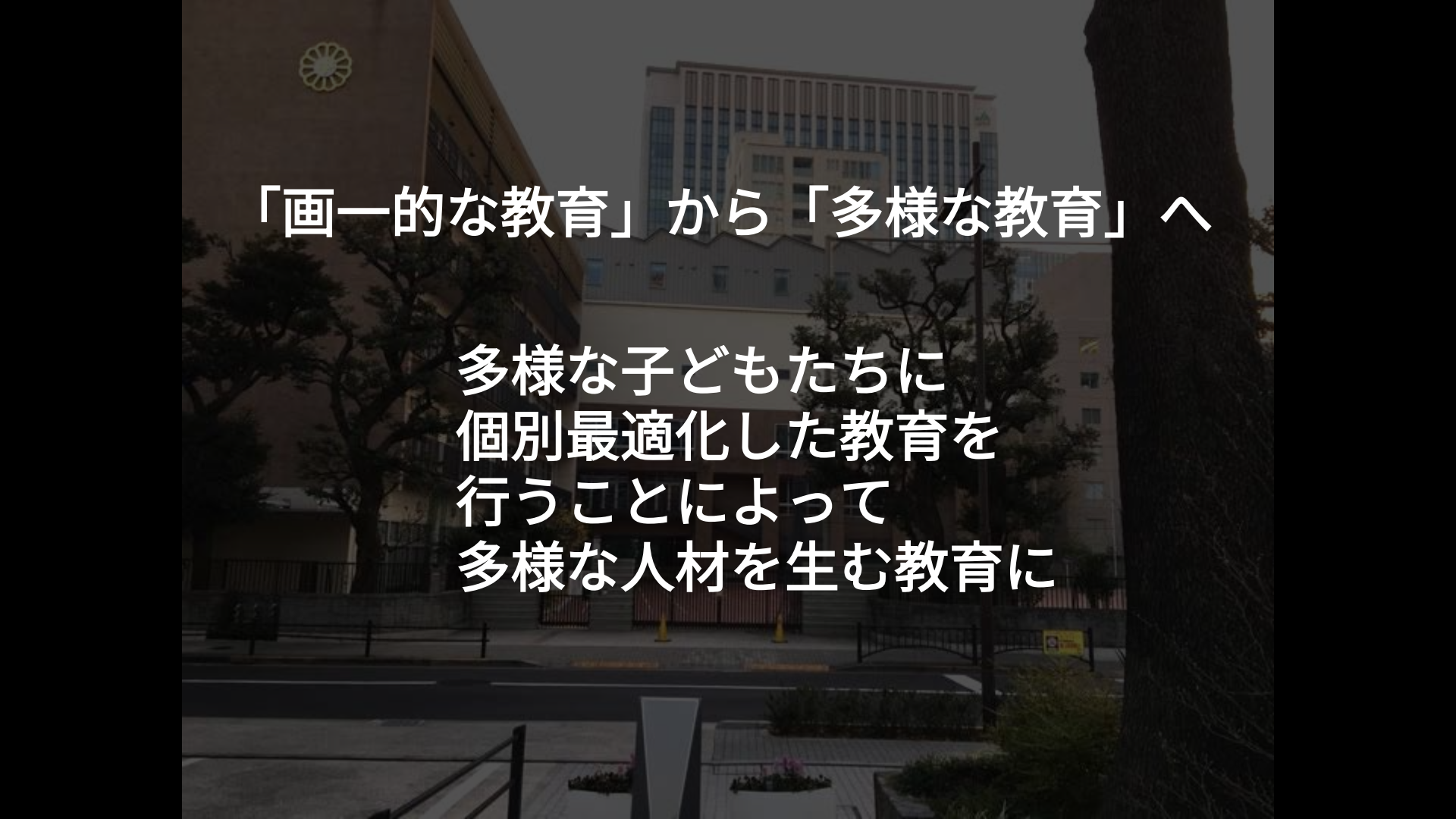




A photograph of a classroom scene. A male teacher with glasses, wearing a grey suit, is leaning over a desk, pointing at a tablet held by a female student. The student is wearing a dark sweater over a white collared shirt. Another student in a white shirt is sitting next to her, also looking at a tablet. In the background, other students are seated at their desks, some working on tablets. The classroom has large windows and a circular clock on the wall.

個別最適化

アクティブラーニング



「画一的な教育」から「多様な教育」へ

多様な子どもたちに
個別最適化した教育を
行うことによって
多様な人材を生む教育に

解決策（実践と提案）

Section 3

教育の最上位の目標

最上位目標の合意と当事者意識

目標

目標

手段

手段

手段

手段

教育の最上位の目標



目標



目標



手段



手段



手段



手段

教育の最上位の目標

全員が
当事者として

手段

上位の目標の実現を損ねない
(手段の目的化にならない)

手段

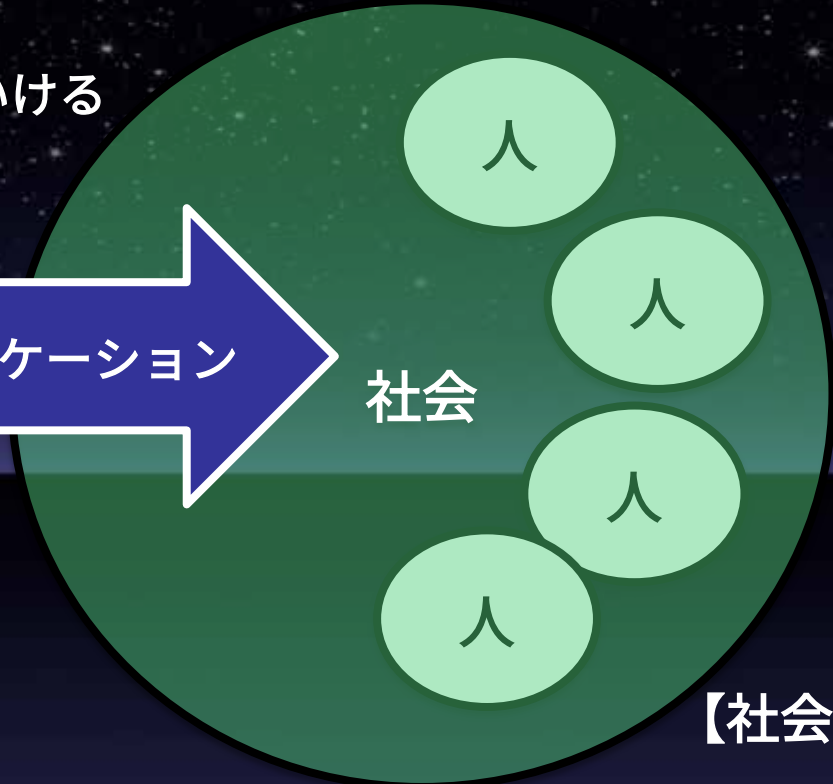
【学校教育の目的】

【個人】

人が社会の中でよりよく生きていける
(学校は社会の準備期間)



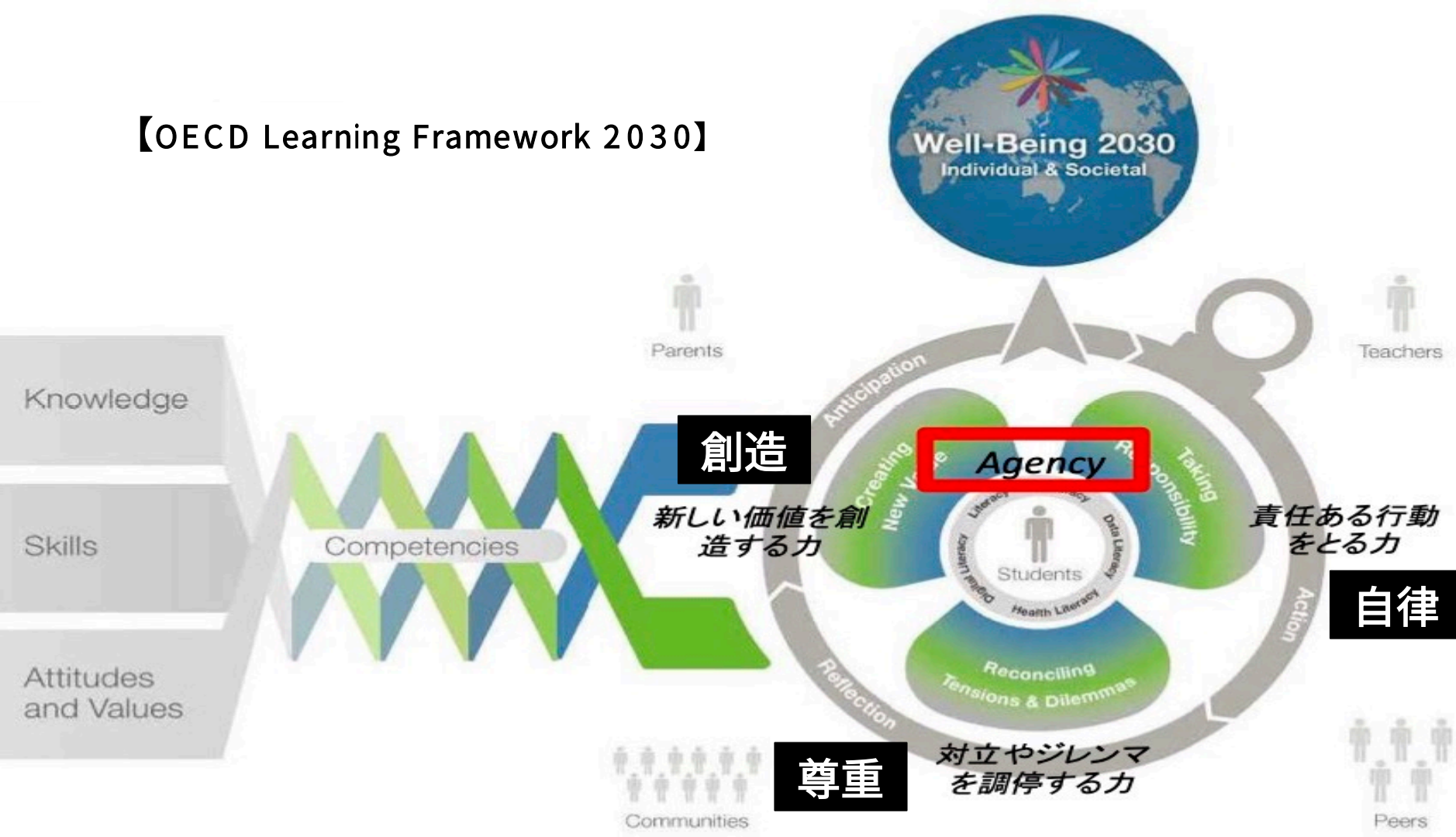
社会

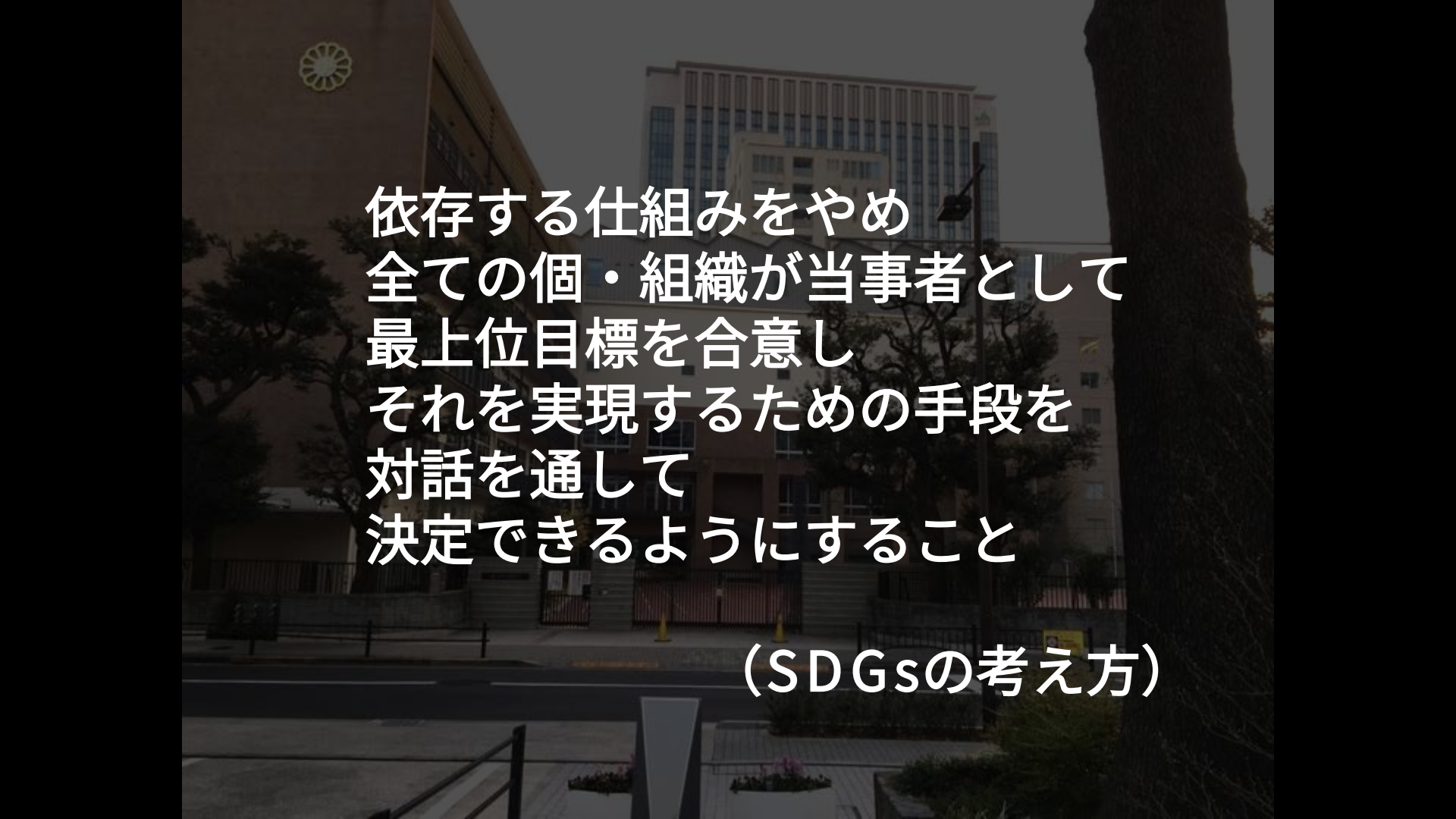


【社会】

よりよい (持続可能な) 社会をつくる
(学校は未来の社会の姿)

【OECD Learning Framework 2030】





依存する仕組みをやめ
全ての個・組織が当事者として
最上位目標を合意し
それを実現するための手段を
対話を通して
決定できるようにすること

(SDGsの考え方)

未来の学校【社会とシームレスな教育へ】

Section 4

産学融合

社会の一部としての学校へ

小さな学校へ（従来の学校の機能）

【社会の準備期間としての学校】

- u 社会で必要な知識・スキルを学ぶ場として
- u 民主的な対話を学ぶ場として

学校施設を常に社会全体で活用

- u 課外活動の場
- u 生涯学習の場
- u 地域活性化の場
- u 憩い・集いの場
 - l 図書館・体育館・音楽室等を独立運営型へ
 - l 部活動等を地域型スポーツセンターへ
 - l 地域の問題を解決する場としての拠点へ
 - l プロフィットセンター的な役割（雇用創出）へ

未来の学校【社会とシームレスな教育へ】

社会の一部としての学校へ

小さな学校へ（従来の学校の機能）

【社会の準備期間としての学校】

- u 社会で必要な知識・スキルを学ぶ場として
- u 民主的な対話を学ぶ場として

学校施設を常に社会全体で活用

- u 課外活動の場
- u 生涯学習の場
- u 地域活性化の場
- u 憩い・集いの場
 - l 図書館・体育館・音楽室等を独立運営型へ
 - l 部活動等を地域型スポーツセンターへ
 - l 地域の問題を解決する場としての拠点へ
 - l プロフィットセンター的な役割（雇用創出）へ



学校を社会の一部として

- 社会と融合したカリキュラム
- 新たな創造と雇用を生み出す場



みんなで「!」を生み出す場所

Open

Collaboration

Space

LODGE





みんなで「!」を生み出す場所

Open

Collaboration

Space

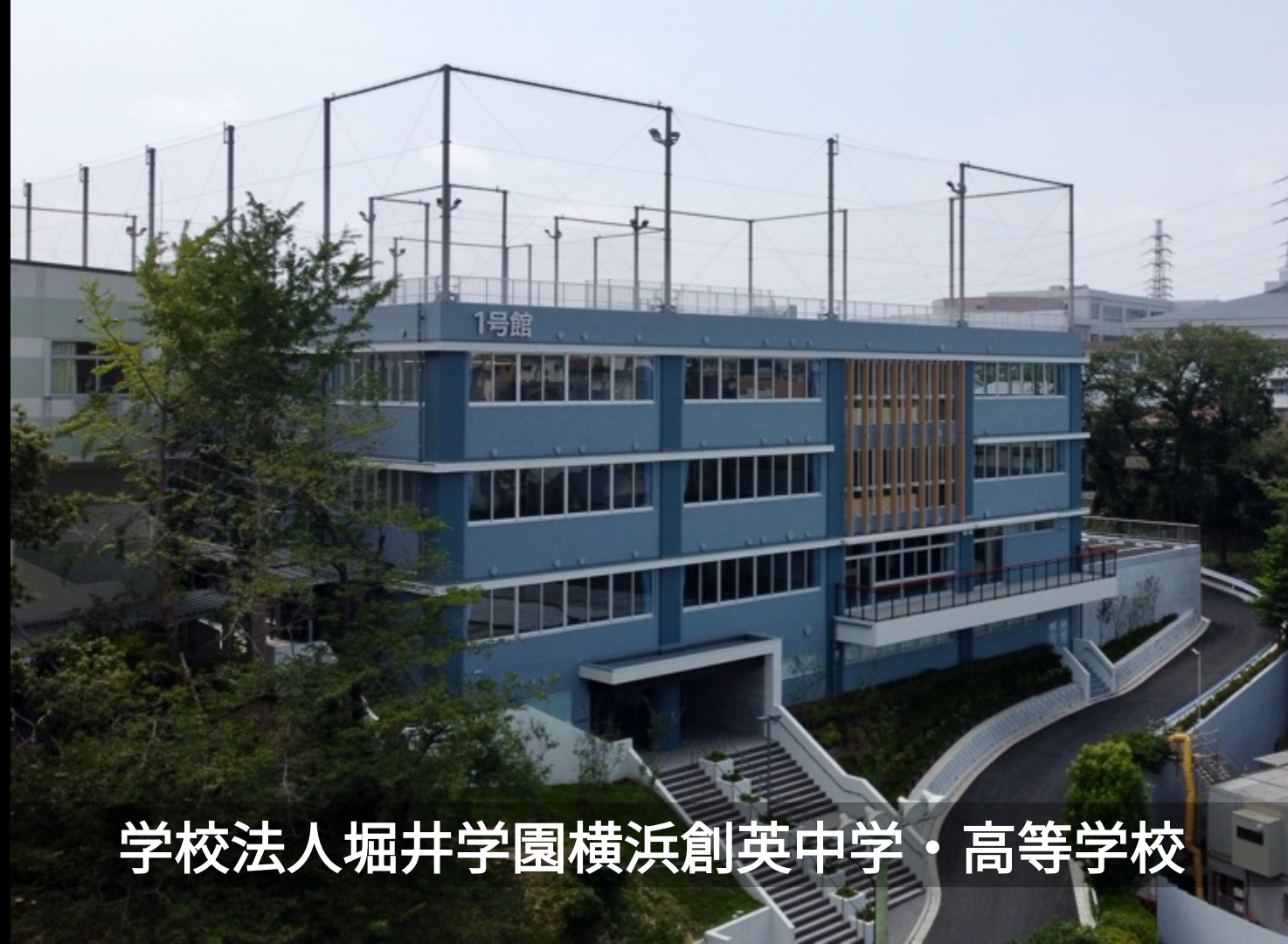
LODGE



LODGE入館用QRコード発行方法



人々が集い創造する場所



学校法人堀井学園横浜創英中学・高等学校